



国際生理科学連合

International Union of
Physiological Sciences
(IUPS)

国際生理科学連合 (IUPS) とは



設立: 1953年に設立された生理科学研究領域の国際学術団体

- ・ 日本は設立当初からのメンバー
- ・ 前身は1889年創設の国際学術会議(当初は生化学・薬理学領域を包含)
- ・ 1956年に国際学術会議 (International Science Council, ISC) 前身の ICSU に加盟し、その後もメンバーとして長く ISC とともに歩んできた。

目的: 生理科学の研究の発展・教育の奨励・知識の普及を推進すること

- ・ **IUPS Congress** (国際学術会議) を 4年ごとに開催: 最新の研究成果の共有・国際学術交流の促進をはかり、**教育ワークショップ・IUPS総会**を開催
- ・ 世界各地域の生理学会連合の国際学術会議の開催を支援
- ・ 生理科学の研究の推進と知識の普及を通じて医学の進歩と世界の人々の健康に貢献

加盟メンバー: 60以上の国/地域の科学アカデミーや生理科学学会など

- ・ 先進国だけでなく、発展途上国からも加盟

ガバナンス: 会長、副会長、事務局長など執行部(5名)

- ・ 理事(15名: 現在2名が日本から)のもとに分野別委員会
- ・ 4年毎開催の総会が最高決定機関

資金: 加盟国/地域からのメンバー負担金



Julie Chan 会長
(2017年～)

生理科学とは



生命現象のしくみ・生体機能のメカニズムとその破綻による異常を明らかにすることを旨とする学術分野

ノーベル生理学・医学賞 (Nobel Prize in Physiology or Medicine) の名称に示されるように、生理科学研究の成果は、基礎学術としての価値を有するとともに、様々な疾患の根底にある病態メカニズムの解明とそれに基づく創薬や新しい治療法の開発につながり、医学の進歩に貢献してきた。

2021年のノーベル生理学・医学賞は、熱や痛み、圧力を感じるセンサーの役割を担う分子を見出した2名の生理科学者に授与された。両博士ともに日本の生理科学者との親交が深い。



David Julius 博士



Ardem Patapoutian 博士

日本学術会議・日本の科学者による IUPS への貢献



日本学術会議が加盟し、日本の生理科学者による貢献を支えている。

・IUPS分科会の久保義弘委員長・御子柴克彦前委員長(いずれも日本学術会議連携会員)の2名が現職のIUPS理事/分野別委員会委員長を務める。



・IUPS会長に金子章道慶應義塾大学教授(当時)(元日本学術会議会員)が就任(2005-2009年) 同氏はIUPS理事・副会長ならびにFAOPS事務局長も歴任



・IUPSコンGRESS(国際学術会議)を日本において2回開催

1965年(第23回)(東京)

2009年(第36回)(京都)

大会長:宮下保司東京大学教授(当時)(元日本学術会議会員)

開会式には皇太子殿下のご臨席を賜る。



・IUPSの傘下に位置づけられるアジアオセアニア生理学会連合(FAOPS)は伊藤正男 元日本学術会議会長が設立に重要な役割を果たし、日本から会長・副会長を輩出。現在、事務局長をIUPS分科会の久保委員長が務める。



・2019年、第9回 FAOPSコンGRESSを日本(神戸)において開催し、大会長を鍋倉淳一 現生理学研究所所長(連携会員/前IUPS分科会委員)が務めた。



第9回アジアオセアニア生理学会連合国際会議 (FAOPS コンgress) 2019年 3月 神戸にて開催



プログラムは2名のノーベル賞受賞者(当時)を含む3名の基調講演、9名の特別講演、80のシンポジウム、1,100題を超える一般演題等、これまでのFAOPSコンgressの中で最大規模の充実した構成となった。海外参加者は500名を、総参加者は2,000名を超える盛会であった。



基調講演

大隅良典博士 (左; 2016年 ノーベル生理学医学賞受賞)
Linda Buck 博士 (中; 2004年 同賞受賞)
David Julius 博士 (右; 2021年 同賞受賞)



特別招待講演

平昌オリンピック金メダリスト
小平奈緒選手



IUPS の活動と今後の計画

第39回 IUPS Congress

(2022年、北京) 開催に向け IUPS分科会久保委員長等がプログラム委員として参画

フィジオーム特別委員会

生理学の各分野と教育、研究倫理を担当する委員会に加えて新しい生理学分野であるフィジオーム特別委員会を組織

若手研究者への支援体制を強化

IUPS コングレス参加者へのトラベルグラントに加えて若手育成を推進する国際的メンター制度を開始

IUPS Academy of Physiology の創設

顕著な業績をもつ生理学者を顕彰
2021年、日本から野間昭典・宮下保司両博士が顕彰

Year-of-Physiology

第39回IUPSコンGRESS、第100回日本生理学会大会(2023年、京都)をはじめ、欧州や韓国など世界各地で生理学の国際学術大会が多数開催される2022-23年の期間を Year-of-Physiologyとし、生理学の研究・啓発を推進

学術誌 Physiome 発刊

IUPSが米国生理学会と協力して発行する生理学学術誌 **Physiology**に加えて、新たにオープンアクセスの学術誌 **Physiome**を発行(2020年9月～)

生理学教育の推進

世界中の生理学教育者(大学教員等)を対象とした教育ワークショップ等を主催、また、傘下のFAOPSが生理学にかかわる学生等を対象とした **Physiology Quiz** イベント開催を支援